

高等学校

平成 6 年 度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 教育研究員名簿

No.	学 区	学 校 名	氏 名
1	1	蒲 田 高 等 学 校	国 分 達 夫
2	2	第 一 商 業 高 等 学 校	櫻 井 一 雄
3	3	第 四 商 業 高 等 学 校	関 裕 俊
4	5	竹 台 高 等 学 校	春 日 盛 男
5	5	足 立 新 田 高 等 学 校	鈴 木 公 美
6	6	南 葛 飾 高 等 学 校	佐 藤 克 芳
7	7	松 が 谷 高 等 学 校	佐 藤 栄 一
8	8	農 林 高 等 学 校	細 田 伸 昭
9	9	清 瀬 高 等 学 校	藤 野 泰 郎

担当

教育庁指導部高等学校教育指導課      遠 藤 隆 二  
花 野 耕 一

## 目 次

I	はじめに.....	1
	1 研究のねらい .....	1
	2 研究の背景と主題設定の理由.....	1
	3 研究の進め方 .....	1
	4 研究の経過 .....	1
II	アンケート調査結果から見た生徒の意識と実態 .....	2
	1 ホームルーム活動 .....	2
	2 生徒会活動 .....	5
III	望ましいホームルーム活動・生徒会活動への提言 .....	8
	1 ホームルーム活動 .....	8
	2 生徒会活動 .....	9
IV	ホームルーム活動の実践事例 .....	10
	1 「友人への手紙」 .....	10
	2 「演劇祭の台本選び」 .....	12
	3 「ホームルーム行事」 .....	14
	4 「年間を通してのホームルーム活動」 .....	16
V	生徒会活動の実践事例 .....	17
	1 生徒会選挙の工夫 .....	17
	2 生徒会指導の体制の工夫 .....	18
	3 卒業式に向けた委員会活動の工夫 .....	20
	4 生徒会役員の選出方法の工夫.....	22
VI	ま と め .....	24

研究主題 「集団の一員としての自覚を高め、自主的、実践的な態度を育てる指導の工夫」  
－ホームルーム活動・生徒会活動を中心として－

## I はじめに

### 1 研究のねらい

ホームルーム活動や生徒会活動は集団を単位として行われる特別活動である。それぞれに求められる「集団の一員としての自覚」をどのようにして高め、「自主的、実践的な態度」をどのようにして育てるのかに視点を当て、その方策を探る。

### 2 研究の背景と主題設定の理由

学習指導要領では、「集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことが特別活動の目標の一つに掲げられている。しかし、高等学校では、この目標が必ずしも実現できているとは言い難いのではないだろうか。生徒の中には協力し合うことに不慣れな者、自主性や耐性等に乏しい者、学校への帰属意識が希薄な者が増えており、ホームルーム活動や生徒会活動が停滞し、その指導の困難さが増している現状がある。

こうした現状は、生徒にとって魅力ある学校づくりが課題であることを示していると考えられる。魅力ある学校とは生徒同士、生徒と教師の信頼関係があり、生徒が主体的に学べ、充実した特別活動が行われる学校であると言えよう。

本年度研究員は、特別活動を活性化するためには、集団の一員としての自覚を高めること、自主的、実践的な態度を育てることが重要であると考えた。集団の一員としての自覚を高めることは、生徒同士、生徒と教師の信頼関係を高めていくものであり、自主的、実践的な態度を育てることは、主体的に学ぶ生徒を育てることに通じていくものである。

本研究では、ホームルーム活動と生徒会活動に着目した。ホームルームは生徒が学校生活を過ごすための最も基礎となる集団であり、生徒会は全校生徒によって組織される集団であるからである。

### 3 研究の進め方

初めにホームルーム活動、生徒会活動に関して、研究員が所属する9校でアンケート調査を行った。次にその分析をもとに、ホームルーム活動、生徒会活動それぞれについて、指導方法の工夫を提言し、それをもとにした各校の実践事例を記述した。これらの提言および実践事例が各校の特別活動の参考になれば幸いである。

### 4 研究の経過

- |             |            |                |         |
|-------------|------------|----------------|---------|
| ① 5/16 清瀬高校 | 研究主題の決定    | ⑥ 10/21 第四商業   | 実践事例の報告 |
| ② 6/3 蒲田高校  | 研究内容の検討    | ⑦ 11/1 竹台高校    | 原稿提出    |
| ③ 7/11 農林高校 | アンケート調査の集計 | ⑧ 11/21 足立新田高校 | 原稿検討    |
| ④ 8/22 御岳研究 | アンケート調査の分析 | ⑨ 12/1 南葛飾高校   | 最終原稿の作成 |
| ~24 集会      | 及び各校の現状把握  | ⑩ 1/12 松が谷高校   | 発表会準備   |
| ⑤ 9/5 第一商業  | 各校の実践の検討   | ⑪ 2/14 都研      | 研究発表    |

## II アンケート調査結果から見た生徒の意識と実態

ホームルーム活動、生徒会活動に関する生徒の実態を把握するために、研究員の勤務校9校（全日制7校、定時制2校）で、一学期末にアンケート調査を実施した。アンケート調査の回答数は5,310で、内訳は全日制5,040、定時制270である。なお、グラフの数値の単位はすべて%である。

### 1 ホームルーム活動

#### (1) 「あなたは学校生活に満足していますか。」(図1)

この質問は、1年生については入学時についても尋ねた。それぞれの時期について満足度がどう変化していくかを棒グラフにした。

満足と答えた生徒は、入学時の20%から1学期末には33%と大きく増えているのに対し、2年生では19%と入学時とほぼ同じになっている。2年生で「満足」と答えた生徒は、1年生より14ポイント少なく、逆に「満足でない」と答えた生徒が15ポイントも多くなっている。

入学時から1学期末にかけては、オリエンテーションや移動教室などの指導により、生徒は学校生活に比較的満足しているが、2年生、3年生では学校生活に十分満足できていない現状がうかがわれる。

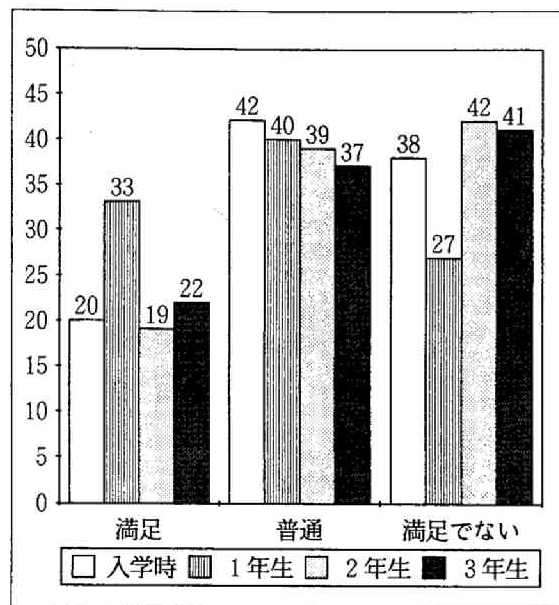


図1 学校生活の満足度

#### (2) 「あなたはホームルーム活動に満足していますか。」(図2)

「満足」と答えた生徒は1年生で35%、2年生では22%であり、13ポイントも少ない。逆に「満足でない」と答えた生徒は1年生で21%、2年生では33%と12ポイントも多い。

ホームルーム活動についての生徒の満足度は、学校生活に対する満足度と同様に、1年生に比べ2年生、3年生の数値が低く、満足できていないことが分かる。

2年生、3年生における満足度を高める指導の工夫が必要である。

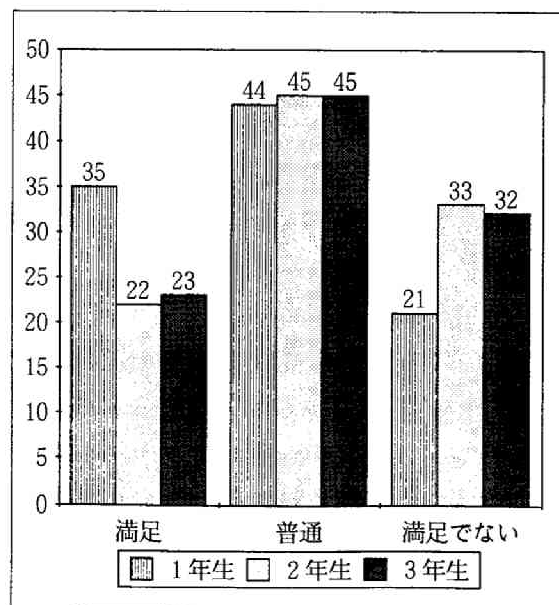


図2 ホームルーム活動の満足度

(3) 「あなたが現在高校で学んでいる目的は何ですか。」(図3)

全体では、「人格形成」や「教養・常識」の値が低く、現実に目の前に直面した「就職・進学」「高校卒業の資格」の数値が高い。

学年別に見てみると、「高校卒業の資格」「就職・進学」について大きな変化がみられる。「高校卒業の資格」を目的としている生徒は高学年ほど数値が高く、逆に「就職・進学」を目的とする生徒は、高学年ほど数値が低い。

学年が進むにつれて、より現実的で目の前が目的となっていく傾向が見られる。

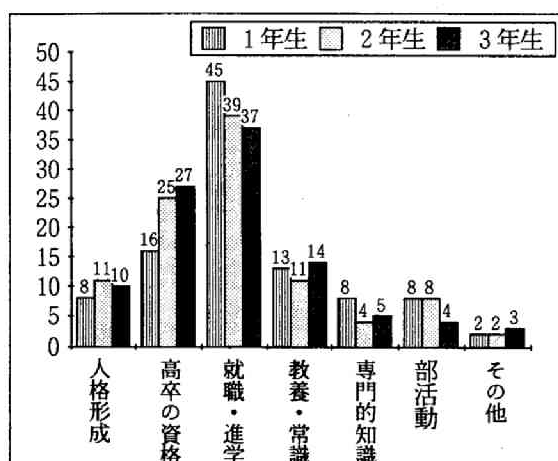


図3 学んでいる目的

(4) 「ホームルーム活動についてあなたが満足していることは何ですか。(複数回答)」(図4)

「ホームルーム内の問題解決」「レクリエーション」「日直・掃除」「係等の仕事」の数値が低いことに注目したい。

学年別に見てみると、全体に右下がりの傾向があり、高学年ほど数値が低い。特に「話し合い」「まとまり」「男女の仲が良い」について顕著に表れている。

満足していることは最高でも25%であり、各項目とも数値が低く、高学年ほどホームルーム活動に満足できていないと思われる。

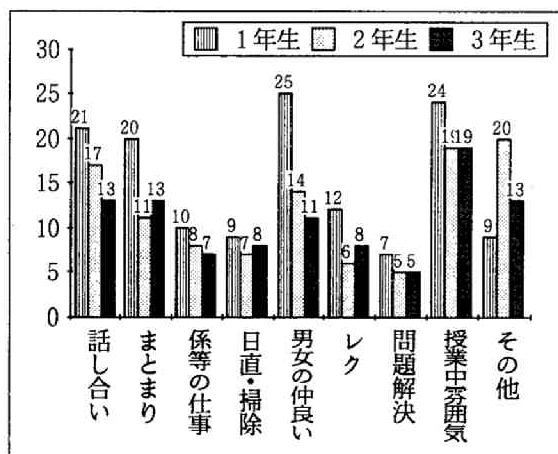


図4 満足している活動

(5) 「ホームルーム活動で、あなたが興味のある内容は何ですか。(複数回答)」(図5)

数値の高い順に並べてみると「学校行事」「友達・異性」「自己紹介などのホームルーム独自の取り組み」「進路」「レクリエーション」となっている。しかし、半分以上のものが10%未満であり、全体として生徒の興味のあるものが少ない。

生徒は、身近で考え易い内容については比較的興味・関心が高いが、「ホームルーム内の問題」や「委員会・生徒会活動」など、重要であったり、取り組みが難しい内容には興味を示さない傾向がある。

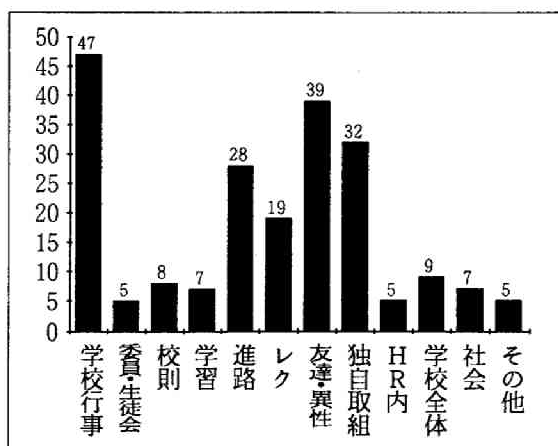


図5 興味ある内容

(6) 「学校生活の中で好きなこと、嫌いなことは何ですか。(複数回答)」(図6)

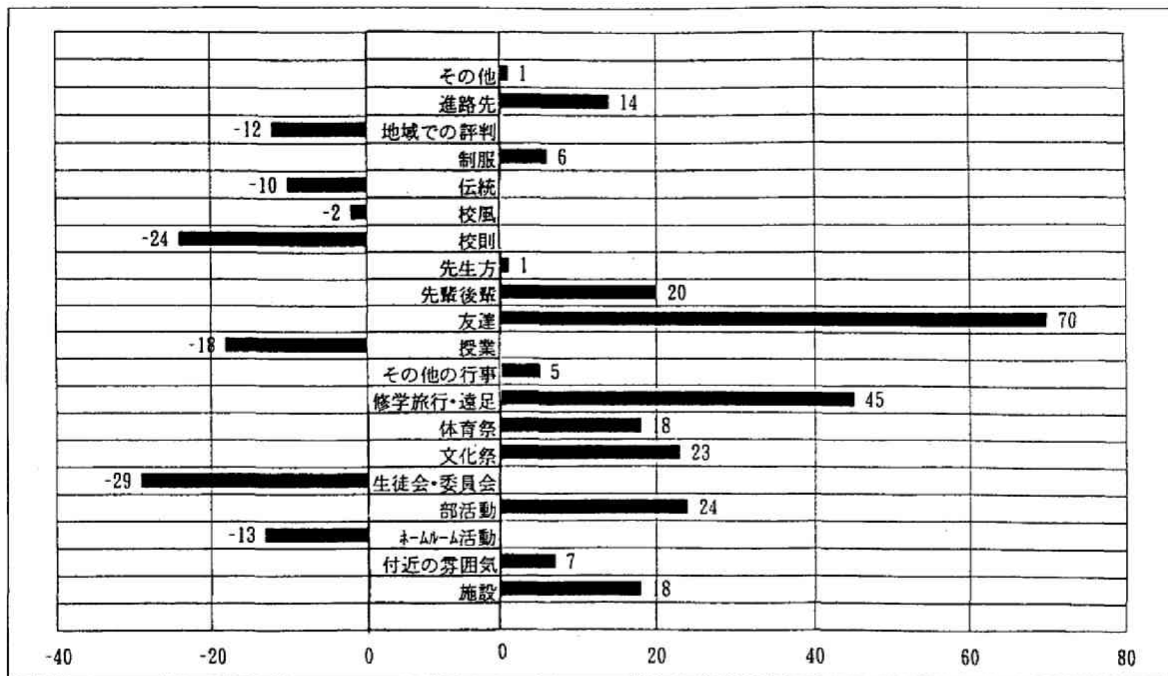


図6 好きなこと-嫌いなこと

各項目について、「好き」と答えた回答数と「嫌い」と答えた回答数の差をグラフにした。数値がプラスのものは、「好き」が「嫌い」を上回り、逆にマイナスのものは「嫌い」が「好き」を上回ったものである。

数値の高いものは、やはり「友達」で、他のものより突出している。次に「修学旅行・遠足」「部活動」「文化祭」と続いている。

数値の低いものは、「生徒会・委員会」で、次に「校則」「授業」「ホームルーム活動」と続いている。

生徒は「友達」や「行事」を好み、逆に「生徒会・委員会活動」や「ホームルーム活動」を好んでいないようである。このことは、ホームルーム活動や生徒会活動をより魅力あるものに改善する必要があることを示している。

(7) ま と め

アンケート調査結果から、1年生に比べ、2年生、3年生は学校生活やホームルーム活動に対する満足度が低いことが分かった。ホームルーム活動の中で、生徒の満足度が低いものは「ホームルーム内の問題解決」「レクリエーション」「日直・掃除」「係の仕事」等であり、生徒が興味を持っているものは「学校行事」「友達・異性」「ホームルーム独自の取り組み」「進路」「レクリエーション」等であった。

ホームルーム活動の満足度を高め、ホームルーム活動を活発化させるためには、生徒が興味・関心を持っている内容を積極的に取り上げていくとともに、満足度の低い内容を改善・工夫していく必要がある。また、生徒があまり興味を持っていない「ホームルーム内の問題」「校則」「委員会・生徒会」「学校全体の問題」等にも目を向けさせ、問題解決による成就感や達成感を味わわせる必要がある。

## 2 生徒会活動

アンケート調査を行うに当たり、「生徒会活動」の範囲は、保健や整美といった各種委員会活動や、文化祭や体育祭などの実行委員会活動も含むものとした。

### (1) 「生徒会活動における役員・委員をやったことがありますか。」(図7)

3年生は、在学中に65%の生徒が具体的な「〇〇委員」という役員の形で生徒会活動を経験していることが分かる。これは、ホームルーム活動に取り入れられている「一人一役制」によるところが大きいものと思われる。

また、「経験無し(希望)」(役員・委員になったことが無いが希望している生徒)は、各学年で2~5%と少なく、希望すれば誰でも生徒会活動に参加できると言える。

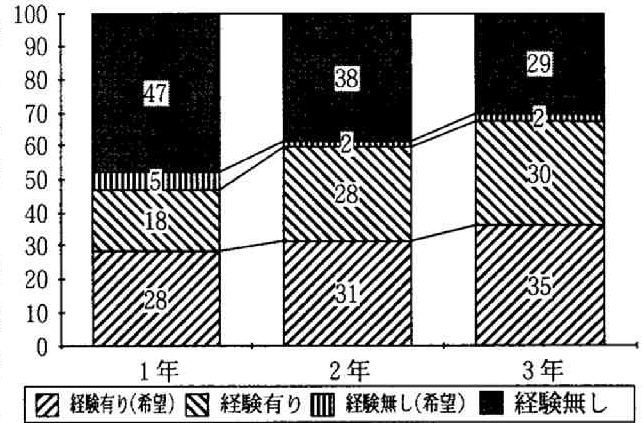
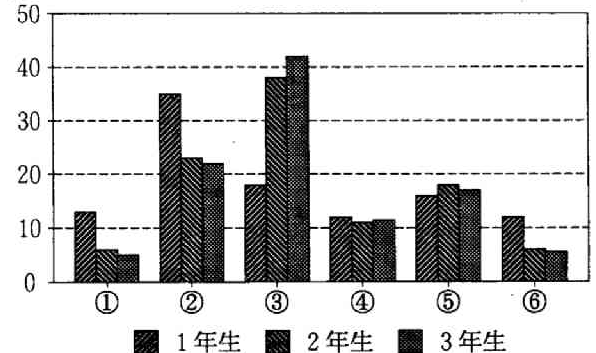


図7

### (2) 「生徒会活動の現状はどうか。」(図8)

1年生は生徒会活動の現状を「役員・委員が中心となって自主的に活動」していると見ている者が多いのに対し、2年生、3年生は「興味のある生徒と担当の先生が活動」していると見ている者が多いことが分かる。

また、全学年とも「ほとんどの生徒が委員会などで自主的に活動」が低い数値になっており、生徒会活動は全校生徒による自主的活動ではないと受けとめられていることが分かる。



①ほとんどの生徒が委員会などで自主的に活動  
②役員・委員が中心となって自主的に活動  
③興味のある生徒と先生が活動  
④先生を中心として活動  
⑤ほとんど活動していない  
⑥その他

図8

### (3) 「あなたの学校の生徒会活動はどの様なことをしていますか。」(図9)

「文化祭などの行事の運営」「生徒同士の親睦を深める活動」「生徒総会などの運営」など行事関係の数値が高い。

一方、「規律・校風の向上に関する活動」「環境美化の活動」「保健衛生に関する活動」など日常的な活動の数値は低い。

多くの生徒にとって、生徒会活動は行事関係の活動が主であり、日常的な活動は見えにくいと言える。

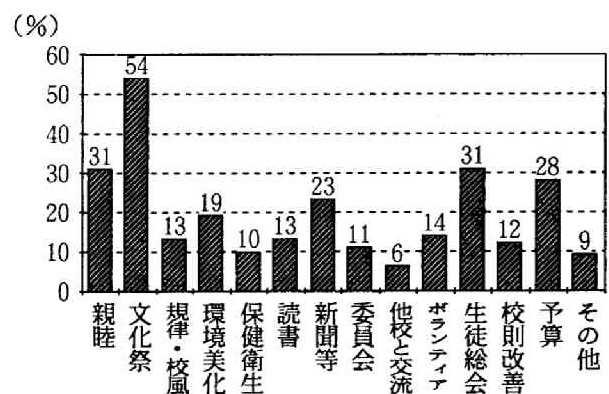


図9

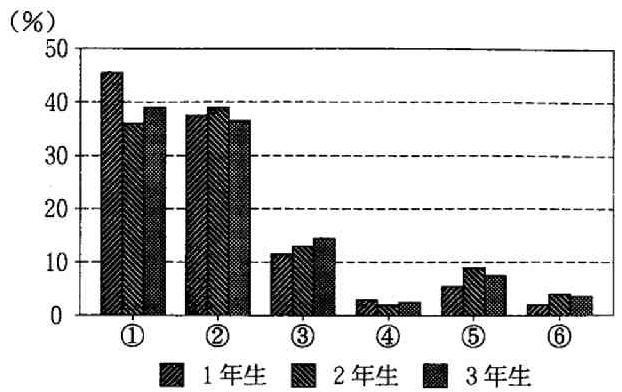
(4) 「生徒会活動はどうあるべきだと思いますか。」(図10-A、図10-B)

「ほとんどの生徒が委員会などで自主的に活動」と「役員・委員が中心となって自主的に活動」と合わせ、「自主的に活動」するべきだと考えている生徒は、全学年で70%を越える。全体に、学年間には大きな違いが見られない。(図10-A)

(2)の「生徒会活動の現状はどうか」の結果と比べると、「自主的に活動」とした項目で数値が異なる。多くの生徒が、生徒会活動は自主的に活動するべきだと思っているが、実際はそうになっていないことが分かる。

役員・委員経験者と役員・委員未経験者を比べると、役員・委員経験者は「ほとんどの生徒が委員会などで自主的に活動」が一番高いのに対し、役員・委員未経験者は「役員・委員が中心となって自主的に活動」が一番高い。(図10-B)

このことは、生徒は役員・委員を経験することによって、生徒会活動は役員・委員が中心となって活動するのではなく、多くの生徒が自主的に活動するべきだと考えるようになったと言えよう。



- ①ほとんどの生徒が委員会などで自主的に活動
- ②役員・委員が中心となって自主的に活動
- ③興味のある生徒と先生が活動
- ④先生を中心として活動
- ⑤ほとんど活動しなくてよい
- ⑥その他

図10-A

ほとんどの生徒が委員会などで自主的に活動

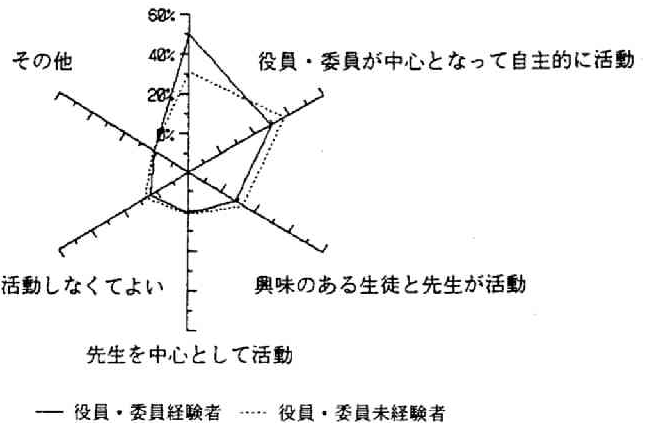


図10-B

(5) 「これからの生徒会活動に期待することは何ですか。」(図11)

生徒の期待は、「文化祭等の行事の運営」「生徒同士の親睦を深める活動」など行事関連の活動に集中している。これは、(3)の「あなたの学校の生徒会はどのようなことをしていますか。」の回答とほぼ同じ傾向を示している。

しかし、一番期待されている「文化祭等の行事の運営」も48%にすぎず、生徒会活動に対する期待は全体的に低い。

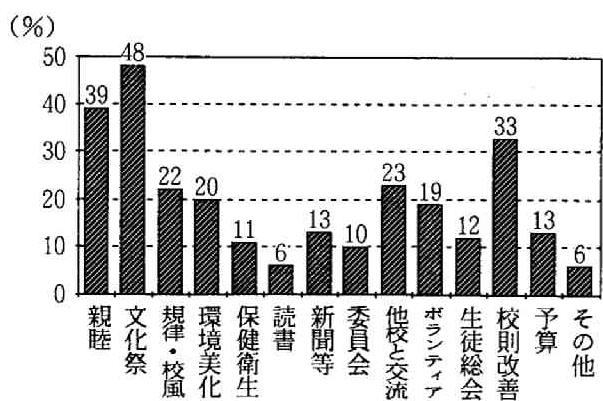


図11



(6) 「生徒会活動を活発にするためにはどの様にすれば良いと思いますか。」(図12)

「楽しい行事を増やす」が62%で最も高く、(5)の「これからの生徒会活動に期待することは何ですか。」で行事関係が高い数値を示した結果と一致する。以下「生徒一人一人が関心を持ち生徒会活動に参加する」「生徒一人一人が委員や係などを責任をもって行う」など、生徒自身の意識・姿勢に関する項目が続くが、「楽しい行事を増やす」の半分以下の数値にすぎない。「楽しい」ことは期待するが、主体的に行動する姿勢には欠ける生徒が多いことを示している。

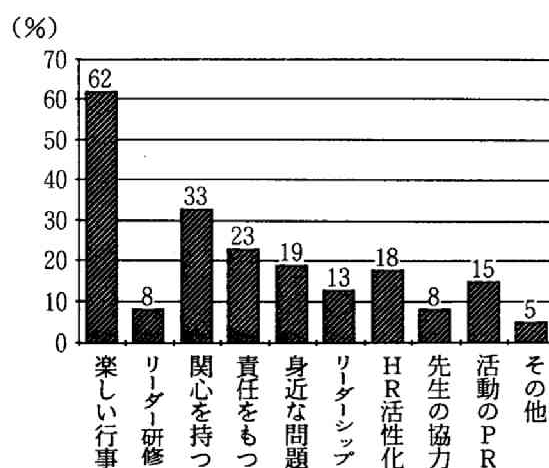


図12

生徒の「楽しい」という言葉は様々な受けとめ方ができる。そこで「楽しい」の意味するところを検討するため、研究員の所属する5校で、生徒会役員及び一般の生徒約60名に聞き取り調査を行った。

聞き取り調査の結果によると、生徒会役員の生徒達は「熱中できる」「みんなで参加(協力)できる」ことを「楽しい」と考えているのに対し、一般の生徒達は「規制が無い」「自由な」ことを「楽しい」と考えており、両者は大きく異なっている。特に生徒会役員の生徒達は、行事や様々な活動を準備・運営する際の苦労も、「楽しい」ことの一つとして挙げている。これは、生徒会役員の生徒達が、生徒会活動を通して成就感や満足感を経験したことによるものと考えられる。

生徒が「楽しい」と思うことは、生徒会活動を経験することによって変わってくる。さまざまな意味で「楽しい」と感じられる行動を行うことが、生徒会活動に求められていると言える。

(7) ま と め

アンケート調査結果から、生徒の生徒会活動に対する興味・関心が低いことが明らかになった。また、多くの生徒は、生徒会活動の現状に興味のある生徒と先生が活動していると見ており、生徒会活動はほとんどの生徒が委員会などで自主的に活動すべきだと考えていることも分かった。

生徒会活動を活性化するためにはどうすればよいかの問いに対しては、多くの生徒が「楽しい行事を増やす」と答えている。そして、生徒会活動に期待することは、「文化祭等の行事の運営」「生徒同士の親睦を深める活動」であると答えている。

多くの生徒が生徒会活動に参加し、自主的、実践的に活動するようにするためには、このような生徒の期待に応えるよう、生徒会活動の内容を魅力あるものに改善し、多くの生徒の生徒会活動への興味・関心を高めていく必要がある。

### Ⅲ 望ましいホームルーム活動・生徒会活動への提言

#### 1 ホームルーム活動

アンケート調査結果より明らかなことは、比較的高かった1年生のホームルーム活動への満足度が、2年生、3年生では落ち込む傾向にあるということであった。ホームルーム活動で「集団の一員としての自覚を高め、自主的、実践的な態度を育てる」ためには、まずこの満足度の低下を防ぎ、さらに満足度を高めていくことが必要である。

ホームルーム活動の中で、生徒の満足度が低下してくるのは「話し合い」「まとまり」「男女の仲の良さ」等である。これらは、いずれも人間関係に関するもので、生徒がお互いの人間関係を築けるようなホームルーム活動が求められる。

また、ホームルーム活動の中で、生徒の満足度が低いのは「ホームルーム内の問題解決」「日直・掃除」「係の仕事」等である。こうした日常的で実践的な態度が必要とされる活動への満足度を高めるためには、長期的な展望を持ちながら、継続して取り組む必要がある。

「ホームルーム活動で興味ある内容は何ですか」という質問では、「学校行事」「友達・異性」「ホームルーム独自の取り組み」「進路」「レクリエーション」が高い数値を示した。ホームルーム活動の満足度を高めるには、生徒の興味・関心が高い内容をホームルーム活動の題材とし、生徒に積極的に取り組ませる必要がある。

このようなことを踏まえて以下のような三つの提言を行いたい。

#### (1) 生徒同士、生徒と教員が信頼関係を持てるホームルーム活動の工夫

ホームルームは学校生活の基礎となる集団である。2年生、3年生での満足度を低下させないために、生徒同士、生徒と教員が信頼できる関係を作っていくホームルーム活動が求められる。

#### (2) 生徒の興味、関心の高い題材を使ったホームルーム活動の工夫

生徒は行事に対して強い興味を持っていることは、アンケート調査結果でも明らかである。表面的には、協力したり行動したりすることを嫌がっているように見えるが、みんなで楽しくということは好きなのである。こうした興味を題材に、より高いまとまりや人間関係を作るような指導の工夫が求められる。

#### (3) 長期的視野に立ったホームルーム活動の工夫

ホームルーム活動において、自主的、実践的な態度を育てるためには、長期的視野に立った継続した指導が必要である。ホームルーム活動の年間計画をしっかりと立て、継続した活動と位置付けることにより、生徒の満足度を高めていくことが望まれる。

以上三つの提言を踏まえた実際の指導上のポイントを挙げる。

- ① 生徒自身に目標の設定をさせ、教師は適切なアドバイスをする。
- ② 生徒自身に計画を立てさせ、教師は適切なアドバイスをする。
- ③ 生徒一人一人が活躍できる場を設定する。
- ④ リーダーやリーダー集団を育成する。
- ⑤ 生徒同士の意志疎通を図る。
- ⑥ 生徒自身に評価、課題の検討をさせる。

## 2 生徒会活動

望ましい生徒会活動を考えるとき、生徒一人一人という個人としての視点と、生徒会という集団としての視点がある。個人としては、生徒会の一員であることを自覚し、自主的・積極的に行動することであり、集団としては、各委員会や組織が良く機能し、学校生活の充実や改善向上を図る活動が多く生徒の参加によって行われることである。この二つは切り離せるものではなく、互いに作用することで生徒会活動全体が活性化することになるであろう。

アンケート調査結果は、多くの生徒が「生徒会活動は生徒の自主的な活動であるべきだ」と考えていながら、実際は一部の生徒の活動となってしまう状況を示した。生徒会執行部も含め、多くの生徒が生徒会活動に対してはっきりとした目標や指針を持たず、どのように活動すれば良いのか分からずにいるのではないだろうか。

特別活動の指導には、「学校の実態や生徒の発達段階や特性等を考慮し、教員の適切な指導の下に、生徒による自主的、実践的な活動が助長される」ような配慮が求められている。生徒の自主性を尊重するため、できる限り生徒に任せることも大切な配慮である。しかし現状では、まず停滞した生徒会活動を活性化し、個々の生徒が自主的に行動できるようになることが必要とされ、そのための計画的・組織的な指導体制の確立と、教員の積極的な指導・助言が求められているのではないだろうか。また、このような指導は、生徒達にとって、生徒会活動の目標を明確にし、実践していく上での支えになると考えられる。

このようなことを踏まえて以下のような三つの提言を行いたい。

### (1) 指導体制の工夫

生徒会活動の指導は一般に少数の教員が担当して行われるが、担当は生徒への対応や作業に追われることが多い。そのため担当以外の教員には指導内容が伝わりにくく、担当以外の意見や考えも指導に反映されにくく、共通理解に基づいた組織的な指導を難しくしている。

できるだけ多くの教員が生徒会を担当し、教員間で指導内容を伝わりやすくすることで、指導方針や計画の共通理解を深め、より計画的で組織的な指導を行うことができる。

### (2) 生徒への働きかけの工夫

生徒会活動の活性化のためには、役員・委員だけでなく、多くの生徒が生徒会活動に対して興味・関心を持てるように活動を計画し、役員・委員以外の生徒に積極的に働きかけることが必要である。内容、時期、方法など活動の様々な面を検討し、生徒一人一人が自主的に活動できるよう動機付けるための工夫は欠かせない。

また、活動に参加して得た成成感は、より自主的、実践的な態度を生徒に育むことができる。教員には、多くの生徒が成成感が得られるように指導・助言する配慮が求められる。

### (3) 生徒会組織運営の工夫

各校の生徒会組織には大きな差はないが、執行部の選出方法など細部では異なっている。この違いには、生徒会活動参加への動機付けに寄与し、活動を活性化させるきっかけとなっている場合も見られる。生徒の意識や考え方の変化に応じ、組織運営を工夫することで、生徒会活動を活性化させることができる。さらに、生徒会の呼び方をもっと親しみやすい名前に変更したり、生徒会執行部を解散し、各種行事の実行委員会の集合体に変えてみるなど、従来のイメージにとらわれない大胆な改革も視野に入れる必要がある。

## ホームルーム活動の実践事例

### 「友人への手紙」

#### (1) ねらい

アンケート調査結果を見ると、生徒の学校生活やホームルーム活動への満足度は、1年生の1学期末の数値が2年生では低下しており、その後も横ばい状態であるという傾向がうかがわれる。A校においても、ほぼ同様のアンケート調査結果であった。こうした状況を改善するには、年間のホームルーム活動を長期的に見通しつつ、1年生の2学期以降のホームルーム活動を活性化することが、重要であると考えられる。

現在担当している1年生のホームルームでも、1学期に生徒相互の友人関係が生まれ、ホームルーム集団は安定したかに見受けられたものの、小集団の間の交流は薄く、ホームルームとしてのまとまりや行事に対する取り組み方などはいま一つ、といった状況であった。この実践を試みたのは、2学期の文化祭を前にして、こうしたホームルームの現状を改善したいとの思いからであった。実践のもとになったのは、入学時に生徒たちが書いた「これからの私の学校生活」という作文である。これをもとに、生徒一人一人が学校生活への意欲を新たにするとともに、相互の理解や交流を深め、ホームルームの一員としての自覚を高めていく中で、自主的・実践的な活動に向かう土台作りをする、というのがこの実践のねらいである。

なお、この実践は2学期初めの数回のホームルーム活動の時間を使い、文化祭への取り組みと並行して行ったものである。

#### (2) 内容 (対象：1年生)

以下、実践の経過をたどりつつ、項目に分けてその内容を記す。

- ① 入学時の生徒作文（「これからの私の学校生活」）を生徒に渡して読ませ、それについてのアンケート調査を行うことで、入学時の各自の思いを確認させ、併せてその思いの実現度について考えさせる。（資料1）

#### 資料1 アンケート調査の文例

- ② 「友人への手紙」 親しい友人にあてて手紙を書くという設定で、各自の入学時の思い、1学期を振り返っての反省、新学期への抱負などを書かせる。
- ③ 「友人への手紙」を、筆名は伏せてホームルーム内で回覧する。その際、感想やアドバイス、励ましの言葉などを、手紙を受け取った友人になったつもりで短いコメントの形で記入するよう指導する。なお、コメント者には自分の言葉に責任を持つ意味で、必ずコメント者名を記入させる。（資料2）
- ④ 「返事の手紙」 コメントを添付した

入学時の作文についてのアンケート	氏名( )
1 自分の入学時の作文の内容を覚えていましたか。	
( )よく覚えていた ( )だいたい覚えていた	
( )少しだけ覚えていた ( )忘れていた	
2 入学時の作文の要点はどういうことでしたか。記入してください。	( )
3 これまでの中で、入学時の抱負の実現度はどうですか。	
( )ほぼ実現できている ( )半分くらい実現できている	
( )少しだけ実現できている ( )実現できていない	
4 次のうち、自分としてほぼ満足できている(あるいは、だいたいよく参加できた)と思うものに○、そうでないものに△をつけて下さい。	
( )授業の受け方 ( )家での勉強 ( )クラブ活動	
( )委員や係の仕事 ( )日直や掃除 ( )友人関係	
( )出席状況 ( )体育祭 ( )遠足 ( )球技大会	
※ これから、「友人への手紙」という題で、入学時の思いや1学期を振り返っての反省、2学期の抱負などを書いてもらいます。上のアンケートをもとにして、親しい友人にあてて書くという設定で書いて下さい。なお、この作文は、氏名を伏せてホームルームの何人かの人に読んでもらい、感想やアドバイスなどを、お互いに付け合う予定です。	

「友人への手紙」を、手紙を書いた本人ではない生徒に配り、「返事の手紙」という形式で、自分と同じと思う所、自分と違うと思う所、感想やアドバイス、自分のこれからの抱負などについて書かせる。またその際、短文のコメントを参考にしよう助言する。

- ⑤ 「返事の手紙」とコメントを添えた「友人への手紙」を本人に返却する。次に、これらをもとにして、一人一人に2学期の目標を立てさせる。併せて2学期のホームルーム目標の案を、一人一案提出させる。
- ⑥ 各自が提出したホームルーム目標案をもとにして、2学期のホームルーム目標を、討議により決定する。
- ⑦ まとめとして、「友人への手紙」という活動についての、自己評価を行わせる。

### (3) ま と め

入学時の作文の内容については、「忘れていた」と答えた者が約4割、「少しだけ覚えていた」者が約5割という状況であった。また、入学時の抱負の実現度については、「少しだけ実現できている」者と、「実現できていない」者を合わせると約7割であった。したがって「友人への手紙」という活動は、生徒各自が入学時の思いに立ち返り、自己の目標を見定め直す好い機会となったと言うことができよう。

もちろん、作文への拒否反応や、作文を回覧することへの抵抗がなかったわけではない。しかしながら、ほとんどの生徒が他の生徒の内面に関心を寄せ、コメント書きや「返事の手紙」に真剣に取り組んだ。そのことは、まとめの自己評価において、「コメントや返事の手紙に真剣に取り組めたか」という問に対して、「よくできた」、「だいたいよくできた」を合わせると約9割であったことや、「コメントや返事の手紙は参考になったか」という問に対しては、「とても参考になった」、「参考になった」を合わせて約9割であったことによく表れている。

また、生徒一人一人が2学期の自己の目標を定めると合わせて、討議により決定したホームルーム目標は「協力と団結」であった。自己を知り、互いの心を通わせる指導を工夫することが、集団の一員としての自覚を高めることにつながることを認識した。

こうした実践と並行して、文化祭への取り組みを進めたのだが、その指導に当たっては、「一人一役」ということを心掛けた。中心メンバーが意欲的であったこともあるが、準備段階においても当日の活動においても、ホームルームの一人一人が参加し、結果として展示部門で賞をとることができた。それにもまして担任として喜ばしかったことは、生徒達の中に自主的に活動する気運が芽生え、ホームルームとしてのまとまりが生じてきたことである。生徒相互の理解や交流を深め、集団の一員としての自覚を高めたことが、協力して活動しようとする雰囲気や、自主的、実践的な態度を生んだのではないかと考える。

今後も、適切な機会をとらえて、集団の一員としての自覚を高めるための指導を工夫することにより、生徒の自主性を引き出しつつ、ホームルーム活動をより豊かなものにしていきたい。

### 資料2 コメントの形式図

「友人への手紙」について、コメント（感想やアドバイス・励ましの言葉など）を書いて下さい。時間は5分ぐらい。5分たったら次の人に回すこと。どの文章も友人からの手紙だと考えて下さい。

コメント者名	コ メ ン ト

## 2 「演劇祭の台本選び」

### (1) ねらい

現在担当しているホームルーム（B校定時制）では、2年生になって学校への興味や関心が薄れ、出席と欠席とを繰り返す生徒が増えた。この点については、2年生になると学校生活やホームルーム活動に対する満足度が低下し、逆に不満が高まるという先のアンケート調査結果と一致する。また、多くの生徒は煩わしいと感じることは極力避けようとする傾向があり、クラスメイトとの関係さえも結ぼうとしないなど人間関係の希薄さも目立つ。

そこで、学校行事として2月に予定されている演劇祭に向け、生徒全員の話し合いによる台本選びを行うことによって、自主的に演劇祭に取り組もうとする姿勢を引き出しつつ、ホームルームの一員としての自覚を高めることをねらいとした。

### (2) 内容

上記のねらいを達成するための具体的な指導内容は次の通りである。

- ① 計画段階から生徒を参加させることにより、自分たちがホームルーム活動の主役であるという意識をもたせる。
- ② 全体目標、個人の努力目標を設定することにより、自主的、実践的にかかわっていこうとする姿勢を養う。
- ③ グループ活動を通して、各自の義務と責任を果たす必要性や協力することの大切さを自覚させる。
- ④ 全員が参加し決定することにより、ホームルームの一員としての自覚を高め、目標に向かって意欲的に取り組もうとする態度を養う。

表1 台本選びの経過と演劇祭までの予定

日 程	活 動 内 容
9/1(木)~9/3(土)	ホームルーム委員との計画作成
9/5(月)	ホームルーム委員によるグループ編成の原案作成
9/8(木)	ホームルーム委員による今後の活動計画の説明 グループ編成と責任者の決定
9/9(金)	ホームルーム委員・責任者との話し合い(計画の確認)
9/14(水)	演劇祭の目標の話し合い・決定 個人の努力目標の設定
9/16(金)	台本選び開始 責任者との話し合い(進捗のチェック、問題点の点検) 演劇祭の目標・個人の努力目標の再確認 グループ評価の話し合い
11/4(金)	すべての台本評価終了
11/10(木)	台本の決定
11/18(金)	台本選びに関する評価と反省 今後の予定の確認
~12/初	台本の手直し完了・台本完成
~12/中	配役決定
~1/末	大道具・小道具完成
2/13(月)(予定)	演劇祭
2/23(木)	演劇祭への取り組み全体に対する評価と反省

生徒に対しては1学期より「自分たちの手で演劇祭をつくり、成功させよう」ということを常に強調してきた。2学期当初、ホームルーム委員3名と担任とで台本選びの計画について数回話し合いの場をもち、生徒とともに計画を作成した。以下はその計画に基づいた実践内容である。

#### ① 全体の計画と活動内容の説明

ホームルーム委員の説明によって活動内容を理解させた。

#### ② グループ編成と責任者の決定

ホームルーム委員が生徒の状況をよく考え、5名ずつの3グループに編成した。

#### ③ 演劇祭の目標決定

グループ内での話し合いの結果を発表し合い、全体の場で決定した。全体での話し合いは余り活発に行われたとは言い難いが、「おもしろい演劇を最後まで楽しくみんなで頑張ろう」ということで意見が一致した。

④ 各自の努力目標の設定

例を挙げると、「役になりきる」「自分を高める」「みんなと協力する」「自分も楽しむ」「主役になる」「台本を一生けんめい読む」などであった。言葉を額面どおりには受け取れない面もあるが、全体としてはやる気の見える目標が多かった。

⑤ 台本の評価

全員が必ず全ての台本に目を通すという条件のもと、各自が読んだ感想をもとにグループ評価を行い、結果を担当に提出するというようにした。台本は担任のほうで用意したが、同時に生徒からも募ることにした。1本目は練習の意味も込めて全員一緒に読んで評価し、2～4本目は各グループごとに読み、評価し終わったら次のグループに回すことにした。5～6本目は全体で同時に行った。(結果は表2参照)

⑥ 台本の決定

評価をもとに話し合った結果『パーマ退学事件』に決まった。多くの生徒は身近な題材に強い興味・関心を抱いていることが分かった。

⑦ 評価と反省

ほとんどの生徒が自分たちで台本を選んだことに満足感を示し、約7割の生徒が演劇祭への意欲が高まったと感じている。一方で「協力関係がもう一步」「仕事の関係で6本の台本は時間的にきつかった」などの声もあった。

(3) ま と め

演劇祭までの長期にわたる指導のうち、台本選びまでの成果としては、次のようなことが言える。①台本選びという具体的な目標を持たせることにより、学校生活に張りができ、常時出席する生徒が確実に増えたこと。②全員が参加することで「演劇祭は自分たちの手で」という自主的な態度が芽生えてきたこと。そして、何人かの生徒の間では自分たちで台本を創作しようという気運も生まれた。③当初グループ活動がスムーズにいかなかったことで、逆に各自が責任を感じ、協力の必要性を自覚できたこと。例えば、仕事の都合で授業には出席できなくても放課後に台本だけ取りに登校したり、話し合いの日には出席者が増えたり、障害のある生徒をフォローしたりというように、自分の責任を果たそうとする努力や協力する姿が随所に見られたことなどである。

当初の計画がやや窮屈だったため、途中で若干の修正を要したが、自分たちの手で台本を選んだという成就感と演劇祭に対して高まってきた意欲を大切にしながら、今後の指導を通してホームルームの一員としての自覚をさらに高めさせていきたい。

資料3 台本のグループ評価表

台本のグループ評価表		グループ
話し合いの日時	____月____日	時間目(何時頃)
出席者	_____	
欠席者	_____	
台本名	_____	
グループのメンバーの評価を検討しながらグループとしての評価を1～5で記入する。		
① 話のわかりやすさ		
② 劇のイメージ		
③ 話の内容に対する興味		
④ 再読してみたい気持 (原作を読みたい気持)		
⑤ クラス発表の台本としての適性		
グループ内で出た意見や感想などを書いてください。		
_____		

表2 グループの評価結果(5段階評価)

項目	台本	セブツァンの巻人	アソネの日記	十二人の思慕る男	銀河鉄道	パーマ退学事件	11の星
①話のわかりやすさ	2.0	2.0	4.0	2.3	4.3	2.0	
②劇のイメージ	2.3	2.5	3.0	2.3	3.7	2.7	
③内容に対する興味	1.7	2.3	3.5	2.7	3.7	1.3	
④再読したい気持 (原作を読みたい)	1.7	1.7	4.0	2.0	4.0	1.3	
⑤クラス発表の台本としての適性	2.3	2.0	3.5	2.3	4.0	1.3	

### 3 「ホームルーム行事」

#### (1) ね ら い

C校の場合、先のアンケート調査結果から、2年生のホームルーム活動への満足度の落ち込みは、他校以上であることが分かった。3年生になってある程度回復するとはいうものの、卒業を前に改めてホームルームの一員としての自覚を高め、C校の生徒で良かったという思いを感じさせたいと考えた。

#### (2) 内 容

今回取り組んだ「ホームルーム行事」は、高校生活の締めくくりとしてさらにホームルーム活動を充実させることを目的とした「ホームルーム独自の取り組み」である。担任として4月当初より「ホームルーム行事」に取り組ませたいと考えていたが、5月に文化祭の企画が「縁日」に決定した時点で指導計画のアウトラインを決め、文化祭後に取り組むことにした。「縁日」はどうしてもグループごとの取り組みになりがちで、ホームルーム全体の取り組みになりやすく、形として何かを残すことができにくいからである。

「ホームルーム行事」を行うためには、まず文化祭の取り組みをしっかりと見直させ、生徒自身の課題意識を高めさせることが必要と考えた。この時点で生徒自身が設定した「ホームルーム行事」の目的は、以下の二つである。

- ・ホームルーム全体で一つのことに取り組む。
- ・ホームルームで何か形になるものを残す。

また、ホームルーム独自の取り組みであったため、「どうして自分達ばかりが…」という意識が生まれぬよう、日程は学校や学年のペースに合わせ無理なく設定した。

下記の表は文化祭から「ホームルーム行事」までの過程を示したものである。

表3 実践経過

期 間	取 り 組 み	備 考
10/9～10/10 (金) (土)	文化祭	ホームルーム企画「縁日」 教室を神社の境内にみたてて駄菓子屋等を出店した。
10/14(水)	文化祭アンケート調査	
11/10(水)	アンケート調査結果のまとめ	友達の意見で印象に残っているものを3つをカードに記入、無記名 ↓ 教室後ろに掲示
11/17(水)	まとめの掲示を見て今後のホームルーム行事の目標を検討	・縁日は店ごとではまとまったが、ホームルーム全体ではまとまった感じがしない。 ↓ ホームルーム全体でひとつの事に取り組む ・一日で壊してしまって何も残らなかったのが寂しい。 ↓ ホームルームで何か形になるものを残す
11/24(水)	案として提出された取り組みを分類 可能な内容の日程等を全体で話し合い、担当したい内容を選んでグループを作り、さらに内容の検討	①校内編 ③制作編(全体) ②校外編 ④制作編(個人)
12/1(水)	担当ごとのホームルームへ向けての希望調査・担当間の調整	日程等調整
12/8～12/13 (月) (水)	期末考査	最終日 スポーツ大会実施(①校内編)
1/12(水)	③制作編(全体)のテーマ・大きさ検討	美術科の協力あり
1/14・1/16 (金) (火)	③制作編(全体)について代表者会議	
1/19(水)	グループごとの③制作編(全体)作業開始	下絵の作成、及び作業日程の調整
1/26(水)	グループごとの作業	通常登校最終LHR
3/4(金)	ホームルームに関する一年間のまとめのアンケート調査実施	最終LHR(その日の夕刻、全体制作の展示)
3/5(土)	卒業式	



「ホームルーム行事」の指導の際、心掛けたことは次の4点であった。

- ・ホームルームの一員としての自覚に欠ける生徒達に、卒業を前にこのホームルームに所属して良かったという思いを感じさせる。
- ・ホームルームとして、文化祭で成し得なかったことに挑戦するという意図で行事に取り組ませる。
- ・ホームルームの全員に、一度は行事企画の中心的スタッフとして活躍できる場を与える。
- ・残り少ないロングホームルーム（LHR）やショートホームルーム（SHR）の時間をホームルームという単位で有意義に過ごさせる。

(3) ま と め

「ホームルーム行事」として何を取り上げるかは、それぞれのホームルームが抱える状況や実態に添って選択すべきものである。ここでは例としてスポーツ大会と『タイルモザイク』制作を挙げた。

長期的な取り組みではあったが徐々に帰りを急ぐ生徒の数も減り、約10kgにもなってしまったタイルモザイクを家に持って帰って飾りたいという生徒が現れるなど自主的な取り組みとなっていった。タイルモザイクのように普段敬遠されがちで手間のかかることに取り組ませることは、最後までやり遂げる粘り強さと成し遂げた後の充実感を学ばせる絶好の機会といえよう。

全員に必ず一度は自分のホームルームのための行事を企画、計画、準備し最後までやり遂げさせることができたのは、この実践の成果の一つであった。

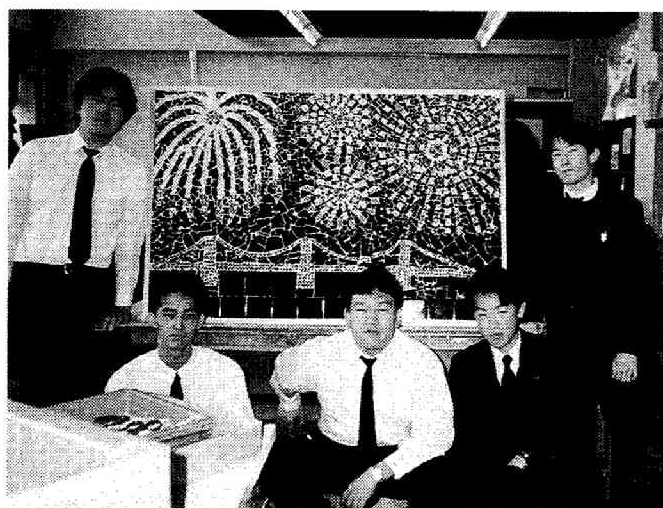
また、ホームルーム独自の取り組みであるとはいえ、学校全体との調整、協力が必要であることを知り得た点も成果といえよう。

【生徒の意見より】

他のホームルームにはないこの組だけの楽しい思い出ができたんじゃないかと思います。タイルモザイクはけっこう嫌われていたわりにはみんな楽しそうにやっていたし、作品のうまいへたはともかく「ホームルーム行事」は大成功といってよいのではないのでしょうか。

表4 「ホームルーム行事」

	スポーツ大会	タイルモザイク
日程・期間	12/13(月) 二学期期末考査最終日	1/19(木)~3/4(金)
場 所	本校グラウンド・体育館	作業 教室 展示場所 職員用玄関
内 容	午前 男女混合2BALLSサッカー 午後 バドミントンダブルス	厚さ5mmのベニヤ板 450mm×1350mm 4枚 春夏秋冬をタイルによるモザイクで表現
参加状況	全員参加 サッカーは男女混合のため初めは照れていたがボールが二つのためそれなりに楽しめる。バドミントンは思いもかけぬコンビの力に驚かされ決勝戦はかなりの盛り上がりを見せた。	全員参加 計画通りに毎日時間を決めて、コツコツと取り組むグループ、後半になってやっとスパートするグループ等様々、いずれも弁当持参の井戸端会議的作業。タイルの割れ口による生傷が絶えなかった。
留意点	体育科への用具借用手続き 部活動他との施設使用打ち合わせ必要	壁掛け作業の困難さ (美術や主事の方の協力)



#### 4 「年間を通してのホームルーム活動」

##### (1) ねらい

年間及び学期ごとの目標を定めて、ホームルーム活動の長期的な展望を持たせるとともに、学級通信や学級新聞を中心とした継続的な指導により自主的、実践的な態度を育てる。

##### (2) 内容

D校2年生のホームルーム活動における年間及び各学期の目標と実践内容、及び指導の工夫として行った学級通信、学級新聞の内容を以下の表5に示す。

表5 年間を通したホームルーム活動の実践事例

目 標	実践したこと	学級通信(担任作成)、学級新聞(生徒作成)の内容
年 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級通信により、担任の考えを生徒に伝える。</li> <li>○日直に新聞を読ませ、感想を書かせる。</li> <li>○生徒に学級新聞を発行させる(月1回)</li> <li>○学習の計画を立てさせる。</li> </ul>	学級通信の主な内容 ① 4/8 年間目標、係の仕事、担任紹介 ② 4/13 毎日の反省と努力、チャイム着席、仕事への責任感 ③ 4/21 新聞を日直に読んでもらい感想を書いてもらうことについて ④ 4/24 特別講座(必修クラブ)、体育祭の準備、鎌倉遠足、保護者会の報告 ⑤ 5/15 遠足を終えて、中間考査1週間前 ⑥ 5/25 中間考査を終え学習の再検討、体育祭、文化祭、修学旅行の目標設定 ⑦ 6/5 体育祭を終えて(活躍した生徒の記録発表、担任の所感) ⑧ 6/19 文化祭は教室劇「べろだしちゃんま」に決定。主題となっている百姓一揆の説明、修学旅行、戦争の悲惨さについて「ベトナム戦争」、「カンボジアの現状」 ⑨ 6/24 修学旅行、班別自由行動(おすすめコース) ⑩ 7/20 英会話の実力アップが夏の課題(夏休みの目標設定) 夏休みの宿題確認、補習(英・数)の確認、進路の方向を決定しよう 文化祭を成功させよう(夏休み中の各係りの活動計画の発表) ⑪ 9/12 2学期に向けて、目標の設定、具体的に何をするか ⑫ 10/23 文化祭を終えて(最優秀賞獲得、若さと力が感じられ協力できた) 進路に向けて(目標の設定、心構え、選択科目のとりかた) 修学旅行に向けて(事前学習、注意すべきこと) ⑬ 12/13 冬休み中の補習計画の確認、進路に向けての学習、3年自由選択科目の説明、現3年生進路決定状況(主に推薦) ⑭ 1/8 3学期の目標、3学期に行うこと ⑮ 3/10 1年間の振り返り、これだけは言っておきたいこと
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨日の反省と本日の計画を毎日全員に書かせ、綴りさせる。</li> <li>○文化祭の準備に取り組ませる。</li> <li>○個人面談(生徒全員)を行う。</li> </ul>	
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3者面談または父母面談(全員)を行う</li> <li>○各係ごとに文化祭の準備をさせる。</li> </ul>	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化祭に向け、当日まで毎日準備させる</li> <li>○文化祭の準備をさせる。</li> <li>○進路の方向を決定させる(個人面談)。(3年時の選択科目の決定)</li> </ul>	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームルーム活動の計画から実践まですべてを生徒にやらせる。</li> </ul>	
来年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年生になっても自主的、実践的な態度で、学校生活に取り組み、体育祭、文化祭等で活躍するとともに、進路に向けての学習にも意欲的に取り組み大きな成果をあげた。</li> </ul>	学級新聞の主な内容(生徒、新聞係を中心に、各班で作成) ① 4/18 鎌倉遠足、新聞発行について、新聞の名前募集 ② 5/6 オゾン層とフロンガス、鎌倉遠足、ホームルーム考察(イザナ) ③ 5/30 中間考査を終えて(感想をイザナ)、文化祭、ヒロシマ、体育祭 ④ 7/1 考査のポイント、インターハイ2名出場、模範争、修学旅行 ⑤ 11/10 修学旅行を終えて、芸術鑑賞教室感想、今後の学級新聞について ⑥ 12/1 期末考査のポイント、頑張るヤルタ体制 ⑦ 1/20 F i g h t 一発マラソン大会、ホームルームで英語小テスト実施 バレンタインデー、衆議院解散と選挙について

ホームルーム活動の年間目標は、「自主的に学習や活動をし、社会に目を向け、将来に向かい力強く生きていく力を身につける」とした。また、各学期の目標は、1学期は「学習意欲の向上」、2学期は「協力と団結」、3学期は「自主的な活動」とした。

1学期に生徒は意欲的に学習にできるようになったが、互いにライバル意識を持ち、牽制し合う傾向がみられた。2学期の文化祭の成功により、生徒は協力して活動することの喜びを知り、困難に立ち向かう力を得た。3学期は生徒の自主性が高まり、ロングホームルームの企画を自分達で話し合い、実践できるようになった。

##### (3) ま と め

生徒は各教科の学力の向上とともに人間としての成長を望んでいる。学習への取り組みを土台として、文化祭などの生徒の興味・関心が高い行事へ取り組ませ、協力や信頼の喜びを実感させることができた。そして、生徒は学習や行事への取り組みから、困難に立ち向かう力を得て、学習をはじめ学校生活全般に自主的に取り組むようになった。

また、ホームルーム担任の発行した学級通信や生徒が発行した学級新聞は、人間としての成長を望む生徒の心に訴えていく手段として有効であった。年間を通した長期的・継続的なホームルーム活動を進める上でも大きな役割を果たした。

## V 生徒会活動の実践事例

### 1 生徒会選挙の工夫

#### (1) ねらい

生徒会活動に対して積極的な姿勢を持ってないままにいる生徒に、生徒会活動の基本ともなる生徒会選挙に少しでも主体的に参加、行動できるようにと、選挙方法の工夫を試みた。

E校では、年に一度行われる生徒会選挙が、近年、前年度の執行部の2年生副会長が会長候補になるのが通例になっていた。従って対立候補などが現れにくく、関心のない一般生徒達は、立会い演説会に対する期待感や興味も薄れ、参加の姿勢も当然好ましくない状況になってしまう。候補者の演説後も関心を持つ様子はなく、教室で信任投票をするだけになってしまう、といった形であった。

そこで、少しでも一般生徒の生徒会活動に対する自主的、実践的な態度を育てようと考え、自らの足で投票所に向かい投票を行なうといった選挙の疑似体験もできる方法を導入することにした。また、新しい選挙方法を取り入れることによって生徒会執行部そのものが活性化することもねらいとした。

#### (2) 内容

投票内容の変更をするために市政レベルの選挙方法を市役所に尋ね、校内で利用できる部分を採用した。従来の選挙公示期間も延長し、選挙運動中も候補者1人につき模造紙1枚分のポスターを掲示したり、昼休みに選挙放送を流したりと、積極的な選挙活動を行なうようにした。

立会い演説会も、体育館で壇上から演説するのでは、一方通行的な感覚があるということで、屋上を利用した。屋上は、体育館より狭く、候補者をとりまくような整列をすることによって、候補者と一般生徒がより身近な感覚を持つことができるように配慮した。

さらに、9月という時期から興味の薄れがちな3年生や、事情を余り把握できずにいる1年生に対し、積極的な姿勢で参加できるように、応援演説等にも工夫がなされた。

#### ア 投票方法

- ① 立会い演説会終了後、各ホームルームにて個人名の入った投票用引換券を配布する。
- ② 校内に設けた二ヶ所の投票所に行く。
- ③ 名簿と照会し、投票用紙が渡される。
- ④ 投票用紙に必要事項を記入し、投票。



#### イ 実践経過

- 9月 7日 定例役員会で、選挙方法の見直しについての案が承認される。
- 9月 8日 選挙管理委員会招集、公示期間の延長、投票方法の変更、立会い演説会会場の変更、選挙運動の制限の見直しについて承認される。
- 9月 9日 生徒会長及び校内選管委員長で市役所訪問、一般選挙の仕組みを尋ねる。

9月12日 生徒会選挙公示  
9月22日～25日 文化祭  
9月27日～10月 6日 昼休みに選挙放送を行なう。  
10月 5日 立会い演説会（5、6時間目）終了後投票開始（投票1日目）  
10月 6日 投票終了（第2日目）、放課後開票作業開始  
10月 7日 選挙結果公表  
10月12日 生徒総会、所信表明演説

### (3) ま と め

文化祭が終わって間もなくの時期であったが、掲示物や放送を活用することによって校内は日増しに生徒会選挙が近いのだという雰囲気になっていった。投票するかどうかは生徒一人一人の意志にまかされたが、投票率は当初選挙管理委員会が予想していたものをはるかに越え、約75%に昇った。この投票率は、生徒会執行部にとって今後のさまざまな取り組みに対して一般生徒とともに積極的に活動していくことの出発点となった。また、今まで校外に出て活動することが少なかった生徒会執部も準備段階において市役所で情報を得るなど、新鮮な経験を得ることができた。有権者である一般生徒は、自らの1票が確実に力になることを認識できたようだ。それによって今後の生徒会活動に対し、期待感や、協調性が生まれてくるばかりでなく、自主的、実践的な態度の育成に影響を大きく与えることができたと考える。

## 2 生徒会指導の体制の工夫

### (1) 指導担当者の増員

生徒会活動では、生徒の身近な事柄を取り上げることや生徒の参加意識を育てることも大切である。生徒会行事や各種委員会の活動が多くの子の目にみえ、活動やその成果がはっきりしていることが「集団の一員としての自覚を高め、自主性、実践的な態度を育てる」ことにつながっていくのではないか。そのためには、生徒会指導が一部の教員が担当するものではなく、全教職員の協力のもとに進められていくものであるという共通理解が求められる。

F校定時制では、生徒会執行部の指導は、2人の教員で行う体制であった。担当の2人以外には、生徒会執行部の活動と指導の内容がよくわからないという状況で、生徒会指導はごく一部の教員が担当すればよく、教員がその指導にあまり立ち入るべきではないという雰囲気が生まれていた。

そこで指導の教員を倍の4名に増やすことにした。これは定時制の教職員の人数を考えるとかなり大変なことであった。しかし担当を増やすことで、①年間を見通した指導方針と指導計画の作成が容易になり、②生徒の指導と活動にも多くの時間をかけることができ、③委員会指導の担当者やホームルーム担当との連携も以前よりスムーズになり、相互を関連させた指導が可能になった。また、行事の後にはアンケート調査を行い、それをまとめ、担当者のコメントを加え配布した。これは生徒会の在り方や指導の在り方についての考えの違いがあっても指導は一致していくということに有効であり、共通理解の積み重ねにもなっていた。

(2) 年間計画の作成

生徒会活動や生徒会活動に対する指導をスムーズに進めるためには、よく練られた年間計画が不可欠となる。以下は一つのモデルパターンである。

表中、実線は準備期間から行事が終了するまでの期間を示している。また破線は、一定の期間継続して行うものを示している。「年間行事」においては、全日制普通科のおおかたの高校で行われていると思われる行事を掲載した。生徒会活動の内訳で、「執行部関係」は、生徒会執行部がほぼ単独で計画、実行する行事等を記している。そして「委員会・実行委員会関係」では、委員会組織が中心となって運営される行事を示している。

こうしてみると、委員会や実行委員会に仕事を分散することによって執行部自体の繁雑さもかなり解消されてくる。多くの生徒に委員会活動の中で行事などに関わる機会を与えられるようになり、委員会活動自体も活性化される。時期的に行事及びその準備が多少重複しても、十分にその目的を遂行できる等の利点が生まれてくる。指導担当となる教員の負担も分散されていく。さらに、日々のショートホームルーム等で各委員会からの報告を行うといったことで、集団の一員としての自覚も高まり自主的な態度も芽生える。生徒会活動のみならず、ホームルーム活動の活性化にも良い影響を及ぼすと考えられる。

行事の精選の中で、現在の行事計画のどこに無理があるのか、どのような改善をすれば良いのかを検証するにも、貴重な資料になると考える。また、新たな行事に取り組む際にも、こうした年間計画を利用し検討すると、無理なく有効な行事を設定することができる。

表6 年間行事計画例

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
年間行事	学年末考査	入学式・オリエンテーション	生徒総会	中体大会	期末考査	部活動総合合宿		文化祭	生徒総会	2年修学旅行	期末考査	スキー教室	マラソン大会	学年末考査	入学式・オリエンテーション
執行部関係	入学式	新入生オリエンテーション	生徒総会				予備会					学年末考査		入学式	新入生オリエンテーション
委員会・実行委員会関係		生徒総会	生徒総会				生徒総会					生徒総会			生徒総会
活動		文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭	文化祭
		2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足	2年選足
		体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会	体育大会
		部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動	部活動
		スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー	スキー
		マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン	マラソン
		学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査
		入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式

(注) ----- 継続的に活動する期間を表す  
 ———— 準備と行事当日、後方付けを含む期間を表す

### 3 卒業式に向けた委員会活動の工夫

#### (1) ねらい

先の提言の中で、生徒会・委員会活動を活性化するためには、生徒の興味・関心を高める指導の工夫が必要であることを述べた。

G校では、3年生の9月を過ぎると、半数以上の生徒の進路が決定してしまうため、学校生活に対する意欲を失い、遅刻・欠席が増えたり、学業不振に陥る生徒が増加することが例年の問題の一つとなっていた。そこで、9月以降、3年生の最大の関心事になっていく「卒業」に着目し、生徒にもう一度卒業の意味を考え直させるとともに、卒業に向けてG校の一員としての自覚を高め、最後まで意欲的に学校生活を送らせることをねらいとして、ホームルーム委員会を中心として「卒業式」に取り組ませることとした。

学年担任団のホームルーム委員会の指導方針は、以下の三点である。

- ① 生徒が高校三年間を振り返り、自己の成長を自覚し、自信を持って巣立っていくための機会とする。
- ② 生徒、保護者、教職員の三者が、生徒の成長を喜び、そのことを素直に、なおかつ最大限に表現できる企画とする。
- ③ 卒業式をできる限り生徒自らの企画参加によって作り上げるものとする。

#### (2) 委員会の組織

G校における卒業式は、従来より、前年度の内容を踏襲する形で行われていた。そのため、卒業式の取り組みに当たっては、G校の良き伝統を失わないこと、儀式的行事としてのねらいを損なわないことが条件となる。ホームルーム委員会では、いかに生徒の企画を卒業式の中に取り入れていくかということについて、あらかじめ十分に検討し、その内容に応じて、以下の専門委員会を設置することにした。

- ① 企画委員会…会場配置、入退場の方法、証書授与の方法、コサージュ作り、記念品の選定など。
- ② 答辞委員会…答辞の内容、発表の方法など。
- ③ 合唱委員会…曲目・曲数の検討、指揮者・伴奏者の選定、歌唱指導など。

専門委員会は、新たに各ホームルームより有志を募って組織し、それぞれの企画に関する原案の作成と実際の準備を行う機関とした。また、ホームルーム委員会は、各専門委員会の作成した原案をホームルームに持ち帰り、検討・議決する機関として位置付けた。このような体制を組織したのは、ホームルーム委員会の中だけで卒業式に向けた活動を行うのではなく、広く学年全体に卒業式の取り組みに対する意識を広げようというねらいがあったからである。教員側の体制は、4月よりホームルーム委員会の指導に当たってきた教員はそのままに、それ以外の担任団全員は、分担して各委員会の活動を指導する形を取った。

#### (3) 活動の内容

専門委員会では、それぞれの企画について、週に1～2回のペースで会合を開き、1月上旬までに原案を完成させ、ホームルーム委員会での検討を経て、各ホームルームの承認を受けた。その後の専門委員会の活動は、3月の卒業式直前まで続いたが、活動内容をまとめると表7のようになる。

また、委員会活動のねらいを達成するために、以下の点に心掛けた。

- ① 卒業式の内容に関するアンケート調査や、答辞の文章の公募などを実施することによって、多くの生徒に関心を持たせ、意見を反映できるようにした。また、委員会だよりなどを発行し、現在、その委員会がどのような活動に携わっているのかを各ホームルームで報告するようにした。
  - ② 会場配置の大幅な変更など、教員の理解を得なければならない内容が多く含まれているため、実現の可能性や意義を明確にすることを常に意識し、説得力のある計画を立てるようにした。
  - ③ 保護者と担任団の交流昼食会を実施するなど、PTAとの連携を密に取り、今回の卒業式に向けた活動に対して理解と協力が得られるように努めた。
- (4) ま と め

委員会の生徒達は、当初の目標の達成を目指して、卒業式の直前まで前向きに活動を続けていた。他の生徒の中にも、委員会に積極的に意見を寄せたり、途中から委員会の一員として活動に参加するものが現れるなど、より多くの生徒が、自主的に活動に取り組むようになった。また、今回の取り組みを通じて、自己の高校三年間を見つめ直し、あらためてG校の一員であるという思いを強めたものも少なくなかったようである。時期に応じ、生徒の関心の深い事柄を委員会活動に取り入れ、実践していくことが、委員会活動の活性化に効果を発揮したと言えるのではないだろうか。今回の実践は、卒業式に向けた3年生の委員会活動という、学年の中での限られた活動ではあったが、卒業式に列席した1、2年生にとって、生徒の企画が活かされた卒業式として、大きな刺激となったようである。

なお、今回の実践が効果を収めた背景には、ホームルーム委員会の活動に対する担任団の共通理解と全員の分担制による委員会への指導・援助、及び今回の取り組みに対する教職員の理解と協力があつたことを付記しておく。

表7 委員会の活動内容

月	活 動 内 容			
	ホームルーム委員会	企画委員会	答辞委員会	合唱委員会
11	・担任団と卒業式の取り組みについて協議、卒業式の方針、専門委員会の設置について決定する	・委員長、副委員長選出 ・会場配置、式次第、証書授与について検討を始める ・会場配置、式次第の原案完成	・委員長、副委員長選出 ・活動方針「1. 多方面の声を集め、全ての卒業生の思いが反映するようにする 2. 文章を公募しその内容を生かす」を決定 ・テーマを「成長」に決定	・委員長、副委員長選出 ・活動方針「卒業に臨んだ気持ちを表現できる歌にする」を決定する ・歌を公募、アンケート調査を行う
12		・証書授与の方法についてアンケート調査、結果を基にして原案を完成する	・全体の構成を検討 ・内容の選択に関するアンケート調査を実施、集計する	・曲目、曲数の原案完成 ・伴奏者、指揮者の公募について検討する
1	・各専門委員会の原案について討議、各ホームルームにおいて承認する	・入退場の方法、コサージュ作り卒業記念品について検討、原案を完成する	・前文の内容について討議する ・執筆者に原稿を依頼する	・練習の方法、日程について検討する ・パート分けの原案完成
2		・コサージュ作り講習会を実施する ・入退場の練習	・原稿の回収、校正、消書 →答辞完成 ・読者の決定	・伴奏者・指揮者の決定 ・クラス別練習 ・パート別練習
3	・卒業式予行、卒業式			

#### 4 生徒会役員の選出方法の工夫

##### (1) ねらい

アンケート調査結果を見ると、生徒会活動は生徒自身が委員会などで自主的に活動すべきであると考えている生徒が約40%いるにもかかわらず、現状がそのようであると見ている生徒は数%しかいないことがわかる。そこで、研究員の所属する各校の生徒会活動の現状について話し合ったところ、次のような三つの問題点が指摘された。

- ① 生徒会役員は、その希望者が少ないために、生徒会担当教員が声を掛け易い集団から選ばれるような現状がある。そのため、メンバーに偏りが見られ、一部の生徒の活動になりがちである。
- ② 生徒会のサロン化・サークル化という言葉によって問題点が語られているように、役員は、毎日のように生徒会室に入り浸り、生徒会活動をするのではなく、雑談をしたりして遅くまで残っている。一方、多くの生徒は生徒会室には入りにくく、違和感をもって見ている。
- ③ 学校行事のほとんどが専門委員会や実行委員会に移管されている現状があり、生徒会執行部とそれらとの関係が希薄になってしまっている。そのため、生徒会活動の大きな柱である学校行事への協力に関する活動において中心的な役割を果たしていない。

ところが、H校では、上記の問題はあまり感じられなかった。その理由は、特徴的な役員の選出方法にあるのではないかと考えた。

そこで、H校における生徒会の役員の選出方法と美化委員会の活動事例を紹介し、H校の生徒会活動について、指摘した問題点からの検討を試みた。

##### (2) 内容

###### ア 生徒会役員選出方法

H校における生徒会役員選出において特徴的なことは、役員立候補者を、ホームルーム及び各専門委員会・部委員会を母体とする中央委員会において選出することである。すなわち、各ホームルーム委員・各専門委員長及び部委員長によるリーダー研修会を行い、その会において役員の候補を選出する。具体的には、生徒会の会長候補はホームルーム委員から選出し、副会長候補はホームルーム委員と各専門委員長・各部委員長から各1名ずつ選出する。その後、候補者は生徒総会において所信表明演説を行い、投票によって全会員の信任を仰ぐ。

多くの高等学校において行われている選出方法は、全会員の中から立候補者を受け付け、会長・副会長等を選挙によって決定するという「選挙型」であるが、H校のそれは、ホームルームを基盤として生徒会が成り立っているということを役員選出の時点で盛り込んだ「代表型」といえる。

###### イ 生徒会・委員会活動の事例

美化委員会は、今まで全くなされていなかったゴミの分別を活動目標とした。まずはじめに、分別システムの確立に取り組んだ。委員会は、生徒側の要望を受け、直接ゴミ処理に関わっている用務主事や事務の担当者および教員との意見の交換を再三にわたって行い、次のような分別システムを確立した。



- ・色分けされた可燃ゴミ用と不燃ゴミ用のゴミ箱を各教室に置き分別をする。
- ・生徒は、そのゴミを指定された場所へ持っていく。
- ・指定の場所に置かれたゴミのうち、可燃ゴミの一部はパンの販売業者が持ち帰り、残りは焼却炉で処分し、不燃ゴミは清掃局に処理をしてもらう。

次に、生徒に分別を徹底させるためのいくつかの取り組みが行われた。

- ① ゴミの分別を重点目標にした清掃週間を設け、分別収集を徹底する。
- ② ポスターを作成し、分別収集の周知を図る。
- ③ 体育祭において、応援合戦の得点基準に各団が占める場所のゴミ分別の項目を入れ、分別の意識を高める。
- ④ 文化祭において、模擬店の企画審査の選考基準にゴミの処理方法の項目を入れ、分別の重要性を訴える。
- ⑤ 用務主事とゴミ処理について話し合い、その録音をしたものを昼の放送で流し、現状を知ってもらう。

いずれの取り組みも美化委員会だけの活動ではなく、生徒会の協力を得ながら、特に①については保健委員会と校内衛生運動の一環として連携し、③、④については各々の実行委員会の理解を得て実施してきた。

また、このような美化委員会のゴミの分別活動は、生徒会や他の委員会の活動に大きな影響を与えた。例えば生徒会では、不燃ゴミのなかに本来校舎内に持ち込みが禁止になっている缶やビンが多いことを取り上げ、校舎内に持ち込まれてくる缶やビンをなくそうという観点から、デポジット制による空き缶回収機のついた清涼飲料水自動販売機の導入という運動を始めている。

### (3) ま と め

生徒会の低迷がいわれて久しく、(1)で指摘した問題点は、多くの学校で指摘できることではないだろうか。H校の役員選出方法は、もちろんこれらの問題を根本的に解決するものではない。しかし、このような選出方法によると、実践例から次のようなことが言える。

生徒にとっては、自分達に身近なホームルーム委員の中から役員が選ばれるために、ホームルーム・委員会活動の活発化が生徒会活動の活性化につながるということがはっきりわかり、自らの実践すべき活動を的確につかみやすくなる。そのため生徒会は、サロン化・サークル化といわれるような目的意識の少ない集団にはなりにくい。

また、組織としては、生徒会執行部と各種委員会・各実行委員会との関係が強くなり、それぞれが互いに有機的に関連して活動する環境が作られやすくなるので、行事などにおいて生徒会執行部が中心的な役割を果たせないといった懸念が少なくなる。更に、役員を選出過程を考えれば、役員が決まらなかったり、メンバーに偏りが見られるなどの心配も少ないと言える。

今後は、一人一人の生徒が生徒会の一員としての自覚を高めるよう、ホームルーム委員を中心としてホームルーム活動の活発化を図り、生徒会執行部と各ホームルームとの関係をより一層強めていく必要があると考える。

## VI ま と め

本年度より高等学校で全面実施となった新学習指導要領は、特別活動の目標の一つに「集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てること」を挙げている。また、学校週五日制の段階的な実施がなされつつある現在、学校行事の精選が各校の課題となっている。

このような中で高等学校の現状をみると、中途退学の増加をはじめ様々な問題が起きている。その一因として考えられるのは、生徒が学校生活で互いの協力や信頼を得ることが少なくなり、自分の目標を見失い、学校との結びつきが希薄になっていることである。

本年度研究員は生徒の学校への帰属意識を高めること、生徒を学校生活に主体的にかかわらせることを目標に、「集団の一員としての自覚を高め、自主的、実践的な態度を育てる指導の工夫」を研究主題とし、ホームルーム活動と生徒会活動に焦点をあてて研究を行った。

アンケート調査の結果にはっきり表れたことは、高校生活が1年生から2年生へと進むにつれ、ホームルーム活動や生徒会活動への期待が失われて、満足度が低くなっていくということである。こうした実態にどう働きかけていけば満足度を低下させないようにできるのか。生徒は一見したところ楽しい行事などを求めているようではあるが、内面では他者との信頼関係を築きたいという願望を持っており、現状の学校生活に不満を持ちながらも自分では解決できずに悩んでいるのではないだろうか。

こうした分析と考察を基に、望ましいホームルーム活動と生徒会活動について検討を行い、次のような指導の工夫を提言し、実践事例を示した。

### <ホームルーム活動>

- ① 生徒同士、生徒と教員が信頼関係を持てるホームルーム活動の工夫
- ② 生徒の興味、関心の高い題材を使ったホームルーム活動の工夫
- ③ 長期的視野に立ったホームルーム活動の工夫

### <生徒会活動>

- ① 指導体制の工夫
- ② 生徒への働きかけの工夫
- ③ 生徒会組織運営の工夫

望ましいホームルーム活動や生徒会活動を実現するためには、ここに挙げた以外にも様々な工夫が考えられよう。時代の変化の中で、生徒が多様化してきた現在、ホームルーム活動や生徒会活動の指導方法には新たな発想が求められている。大切なことは、生徒と教員が協力して考え、計画し、活動していけるような指導を各校の実態に合わせて工夫することではないだろうか。

生徒にとって魅力ある学校の実現は、緊急な課題である。そのためには、各教科の学習活動と同時に特別活動の充実が求められていることは明らかである。今年度取り組んだ研究は、特別活動による魅力ある学校づくりの一つに位置付けられよう。

この提言と実践事例が、各校の参考になり、さらに研究が進められていくことを願ってやまない。